

国際ロータリー第2560地区
ガバナーテーマ

「自らのロータリーストーリーを
作りましょう」

高田ロータリー
今年のスローガン

「善意を深め、
奉仕の力を昂めよう」



インスピレーションになるう

2018～2019年度

国際ロータリー会長 バリー・ラシン
2560地区ガバナー 川瀬 康裕
高田ロータリー会長 牧野 章一
幹事 佐藤 教彦

事務局：新潟県上越市西城町2-10-25 大島ビル201号
TEL (025) 526-3288 FAX (025) 526-3534
メールアドレス：takadarc@joetsu.ne.jp
例会場：デュオ・セレッソ TEL (025) 526-3111

クラブ広報・会報・雑誌委員
堀井 靖功 岩崎 幹男 宮川 大樹

第39回例会 ■ 5月31日(金)

No.39

会長挨拶 ● 牧野 章一



皆さまこんにちは。

28日、令和初の国賓 トランプ アメリカ合衆国大統領が帰国する日、川崎市でスクールバスを待っていた児童らが襲われて2人が死亡、17人が重軽傷を負う痛ましい事件が発生しました。

「もはや学校は自分たちだけで安全は守れない。地域の力を借りるしかない」は教育評論家の尾木直樹氏の発言です。

今月8日には、滋賀県大津市で保育園園児らが信号待ちをしていた列に軽自動車が突っ込み2歳の園児2人が死亡、4人が重軽傷を負う事故がありました。

身近に潜む災難。日常に潜む危険。すでに5月から始まった猛暑も身近に潜む危険といえます。

この日常の不安、個人や家庭に、職場にある不安へ 日々どう向き合っていけばいいのか!?!であります。

どうでしょう。身近に潜む危険や災難、不安への対処方法は、幾つかあると思います。先ほどの地域の力、共助もそうです。そして、他の幾つかの中に「善意」があると思います。身近な善意です。ロータリーで云う「奉仕」です。

身近な善意、日常の中にある好意、小さなこと

を大切にできる心、小さなことで共感する仲間がいる、有り難いことです。ここに「解の1つ」があると思うのですが、いかがでしょうか。

本日の卓話は、上越教育大学 副学長、芸術・体育教育学系 教授 直原 幹様です。テーマは「私たち」の話です。ご期待ください。

大島精次さんのお別れ会



4月19日逝去された大島精次パストガバナーのお別れ会が5月28日、デュオ・セレッソで開催されました。地区をはじめ数多くのロータリアンも参列、献花しご冥福をお祈りしました。

出席報告

出席率 98.04%

メイクアップ

高坂光一君 (5/25 地区 RA 地区協議会、5/29 新井 RC、5/30 越後春日山 RC)

セレモニー

米山記念奨学金贈呈 周 勝男さん



委員会報告

出席ニコニコBOX委員会

高坂光一君——おかげさまで、本日65回目の決算を迎えました。…という訳で、少し早めに失礼します。感謝とお詫びを込めてニコニコします。

会員インフォメーション

渡邊 隆君——6/18上越はつらつ元気塾「地方×複業でつくるこれからの働き方」のご案内

幹事報告

配布物：週報No.38、2019-20年度委員会組織表・年間プログラム、ロータリーの友6月号、6/18上越はつらつ元気塾チラシ

回覧物：看護大学×上越教育大学連携講座チラシ
報告：ロータリーレートについて、6/10ファイヤーサイドミーティングのご案内

卓話 「かたち」の話



「武道」は、日本独自の発展を遂げて継承されている運動文化といえます。そして、武道の世界で重要視されている事の一つに「型（かた）」を守ることがあります。また、合理的で美しい「形（かたち）」の表現が求められます。このことを「型文化」と言い換えるなら、日本ではなぜ「型文化」が発展したのかということの背景を、卓話の席では以下について紹介しながら説明させていただきました。

1. 「型」はほかのものに等質的に移される性格のものであり「ものになる手本」、「雛形」、「鋳型」の意である。それに対し、「形」は外に現れた具体的な外形、形態、表に現れた個々の現象、表現である。
2. 「守・破・離」における「離」の境地は、真に独自の形・個性・美の表現であることから、「型」は美しい「形」を生み出す元・基準といえる。

国立大学法人上越教育大学 副学長 直原 幹様

3. 西洋では、庭園や建築などの美の基準として、対称性の高いものが好まれてきた。
4. それに対して日本の庭園などでは、自然をあるがまま受け入れた非対称生の自然美を好む傾向が観察される。
5. 芸術文化・観賞文化の位相ではこのような「かたち」の違いが観察されるが、生活のための実用文化の位相ではどのような「かたち」の違いが観察されるのだろうか。
6. 「洋鋏」（：非対称）と「和鋏」（：左右対称）の例にあるように、生活レベル（実用文化）において、西洋は道具を人間の使いやすいように非対称に改良してきたのに対し、日本は対称性の高いシンプルな道具を高度な「技」で使いこなすという志向性が感じられる。
7. 「技」の発達に伴い、その伝承手段としての「型」の重要性が高まったことが型文化発展の背景にあるのかもしれない。

私もひとこと

「ロータリーの友」へご意見・情報をお寄せください



2019-2020ロータリーの友地区代表委員 堀井 靖功 君

5月20日にオリエンテーションが開催されました。地区委員の任務は ①「ロータリーの友」を読んで、毎月15日までにレポートを提出すること ②地区内のニュースを適宜（事業実施から1カ月以内に）報告すること ③年6回の東京での委員会に出席（代理不可）すること ④……等々でした。

全国34地区から集まった委員は、やる気満々？で、グループディスカッション・全体会議も日ごろのロータリーの実務経験を踏まえて活発な発表がなされました。

えらいところへ出てきてしまったとの思いと、ロータリーの神髄をかいま見る良いチャンスを与えられたと喜ぶべきか…心中複雑な思いを味わいました。近隣地区の「友」委員との交流、さらには「友」の編集長野崎恭子さんがなかなかユニークな方で、加えて新潟出身とのこと…何かホッとしました。

ちなみに当日のオリエンテーションの中からいくつかが報告いたします。

- 「友」は月9万5千部を発行。
- 7月からの新企画は「この人訪ねて」・「侃侃諤諤（かんかんがくがく）」・「日本のロータリー100年」・「私の宝物」がスタートします。自薦他薦大歓迎です。
- 広告掲載も歓迎です。広告収入のおかげで「友」の収支は黒字に転換しました。

いずれにしても「友」への意見や感想、地区の活動状況など、どのようなやり方でまとめ・収集するのか、また地区にとって何がどの程度に必要なことか…先輩代表委員に教えを乞うて、また皆様のお知恵をお借りし、自らも楽しみながら、大谷ガバナーの任命に応えていきたいと思っております。皆様のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。